September 2006

千里地理通信

関西大学地理学研究会会報　第55号

Newsletter of Geographical Institution, Kansai University

Contents

Page 1 ……
巻頭言
実景，創景，そして真景－歌川広重の世界から－
橋本　征治

Page 2 ……
卒業生だより
学位記（博士）を授与されて
吉田　雄介

学窓から
卒業論文に向けて
中島　知美

Page 3 ……
一泊巡検報告
大正区から神戸・姫路にかけて
田口　史記

研究ノート
Page 4～5 ……
博多港輸移出貨物における背後流動の変遷
吉兼　崇博

Page 6 ……
教室だより
平成17年度会計報告

Page 7 ……
卒業論文・修士論文題目一覧

Page 8 ……
随想
棚田農村に関する研究と実践
宮崎　猛

新入会員より
Page 2～3

新院生紹介
Page 3, 6～7

実景，創景，そして真景
－歌川広重の世界から－

橋本　征治

この5月中旬に神戸市立博物館を訪れた。折から催されていた「江戸の誘惑」展をみるためであった。折悪しく雨模様であったが，館内は熱心な観覧者で溢れていた。この展覧会は，ボストン美術館が所蔵するウイリアム・ビゲローのコレクション選りすぐりの肉筆浮世絵68点が初めて公開されたもので，日本ではまたとないチャンスということから，この人気振りなのだろう。

選りすぐりの肉筆画は，その色の鮮やかさと繊細さによってわれわれの目を奪い，浮世絵師それぞれの構図の妙はわれわれのハートをしっかりと捉える。遊所とその台所や，湯女風呂の様子を描いた「江戸四季風俗図巻」（菱川師宣とその工房の作か）は，江戸の風俗を生き生きと伝えている。また，歌川豊国は鮮やかな黒羽二重を羽織った大振りの役者を表情豊かに描き，懐月堂（長陽堂）安知は，台に座って手紙を口にくわえる美女を大胆な太い線でもって描いてみせている。圧巻は，なんと言っても葛飾北斎であった。後ろ姿の美人と鏡に映る顔表を対置した「鏡面美人図」はピカソも顔負けの構図の妙を示し，「唐獅子図」は躍動感に溢れている。圧巻は「鳳凰図屏風」で，中央に据えられた狷介な面構えの鳳凰が八曲の屏風一杯に羽を広げた様の雄大さと圧倒的な力には思わず息を呑んでしまう。「李白観瀑図」は小品ながら，その構図は簡明雄大である。一方，歌川広重のものは僅か1点であったのは寂しかった。小品「東部佃ノ漁舟」は，朧な満月のもと暮れなずむ佃島，前面には船体が暈かし隠された二艘の帆船が高々と突き出た二本の帆でもって描き切られ，その先には篝火を焚く小舟，さらに沖合の小舟群が穏やかにもやっている。静かな作品である。

ここ数年，浮世絵の世界に魅入られている。きっかけは，一枚の浮世絵に導かれて，静岡県の由比と蒲原の間の薩埵（さった）峠に登り，駿河湾越しの雄大な富士の姿を目の当たりにしながら，その構図の妙が心に沁みたことにあった。そして，はっと思い当たった。そこには虚実が交わり合っていていることに，そして絵師の豊かな創造力にも。それは，広重の『東海道五十三次之内』の「由井（薩埵嶺）」（保永堂版）で，16番目の由井宿方面を見下ろすように描いたものである。急崖を往く旅人は柴を背負い込んだ杣人（？）と行き交い，海側に突き出た巌には2本の松が交叉して立ち，帆掛け船が駿河湾を行き交い，漁をする小舟は動きを止め，そして雪装いの富士が由井の宿の背後の低い山並みを前山としながらそそり立つ。美術評論家はいう。旅人が往く斜面は誇張され，松を載せる巌は現実には見当たらないと。その通りである。さらに付け加えるならば，薩埵峠からの富士の裾野の末端は前山に遮られるように描かれているが，目の前の富士は前山越しに広大な裾野を広げている。ところが，由井宿辺りからみると，富士の裾野は前山の陰に隠れて，ほぼ広重の絵のような配置になる。これは，広重の視点が移動していることを示唆する。そうした観点から，改めてこの絵をしげしげと見渡してみると，駿河湾に浮かぶ帆掛け船と視座とを結ぶ線はそれほど傾いていないように見える。それは，視座が薩埵峠にではなくて，かなり低い位置にあることを示唆する。そう解釈して，例えば由井宿近くの海辺の高台から見渡したと見なせば，帆掛け船が異常に近々と，大きく描かれていることも頷ける。それに対して，浮かぶ小舟は高い位置から見下ろしたように見える。以上のことが正しいとすれば，この絵は，複数の視座から描かれていることになる。

今一つは，31番目の舞坂宿の「今切真景」（保永堂版）。浜名湖の南端，今切から浜名湖を望んだ景である。かつて舞坂から荒井まで連なっていた砂州が明応年間の大地震，高潮で切れたところからこの名前がある。ここでも，浜松方面を望む入り江は峨々とした山並みに囲まれ，その奥には真っ白な富士が遙か遠くにといった案配で描かれている。一般には，こうした山並みは広重の作為が加わったものであるとされている。その通りであろう。確かに，この辺りは丘陵地帯で，せいぜい標高20～30メートルにすぎない。しかし，作為の所産として描かれた山なみを切り捨て，この絵を虚構のものとして片付けてしまってよいものだろうか。山並みの配置関係は，ほぼ実際と合致しており，富士山も今切から十分に望むことができたであろう。そして，平凡な丘陵を峨々とした山並みとして描くことによって遠景としての富士を際立たせたと読み解くことも可能ではないか。ここで，改めて広重が，わざわざ「今切真景」と書

き込んだ訳を少し考えてみたい。広重がいう真景とは何か。『絵本江戸土産』の中で，広重は「…専ら写真を旨として…景勢を図せんと思ふ」と記している。これだけ読むと，写実一本槍，実景をそのまま引き写すことに専念したように見える。しかし，『富士見百図』では「…小冊紙中もせばければ，極密には写しがたく，略せし処も亦多けれど…」とし，さらに『絵本<東海道風景図絵>凡例』では「巻中すべて草筆にして写真の図にあらず，其の趣をとり道具を用ひて余は寓意に出るの風景なり」としている。すなわち，広重の真景は，写実を基本としながらも，省略と寓意，換言すれば大いなる創景を加えていることを暗に仄めかしている。広重研究の第一人者の内田實もこのことを捉えて，「その土地に属する特相及び感情を，特にクッキリと引抜いてそれを描いたものである…許される限り，邪魔物や不調和なものを取り除けた。遠近・高低・広狭・大小等の諸点をも調節した」と述べている。これは，先の2幅の絵について筆者が述べたことと符合する。

思うに，広重は実景をベースとしながら，創意に照らして創景を施し，自らの芸術的意志を表現した。それこそ，広重の真意としての真景ではないか（この点については，昨年9月，岐阜森林アカデミーでの講演で披瀝した）。実景と創景を分別していくことによって真景を読み解くことは，優れて地理学的な営みといえるのではないか。少し時間の余裕がもてるようになれば，この作業仮説に立って広重の浮世絵の世界に分け入り，『東海道五十三次之内』の宿駅も辿ってみたいと願っている。

最後に一言，広重の創作の営みは，我々の研究に通じるところがあるように思われる。すなわち，「実景」は現実を調べ，検証することであり，「創景」は研究者の創意が生かされるところであり，研究者にとっての「」真景」とはまさにそうした営為によって紡ぎ出されたものであるといえよう。

（本学教授）

卒業生だより　学位記（博士）を授与されて

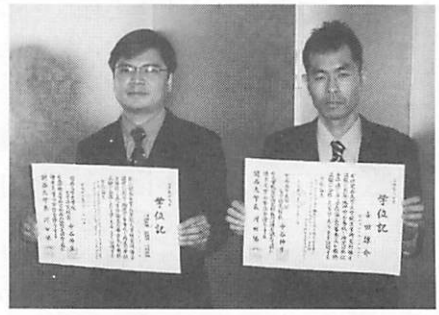
吉田　雄介

この春，学位記を授与された。論題は，「イランにおける手織物生産の多様な存在様式－ヤズド州メイボド地域のズィールー・白木綿・ペルシア絨毯生産を中心に－」である。

多岐亡羊の世相におぼれ，ここまで随分と時間を要した（写真の Tuan 氏は3年で取得）。修士課程（立命館大学・国際関係研究科）の時に末尾至行先生の講義を交流制度で履修させていただいた。そこから，関西大学とのご縁が始まったわけだが，関大大学院博士課程後期課程に入学したのが1995年，徒に功を急ぐ必要はなけれど，退学・再入学などをはさみ長く在籍した。

直接・間接を問わず，これまで地理学教室の先生方にはお世話になった。末尾先生が退職されてからは，橋本征治先生に博士論文の指導を仰いだが，両先生の恩顧には感謝の言葉もない次第である。

他の先生の御芳情も思い出深い。たとえば，関大に進学して初めて参加した修士論文報告会のこと。この質疑応答の際に，馬鹿正直に「地理学のことはわからないのですが…」という枕詞をつけて質問をした。すると，高橋誠一先生から地理学を知らないなどと不用意に発言するのは関大地理の恥である，という旨のお叱りを受けた。この一喝で，改めて教室の伝統というものを思い知らされ，身が引き締まった。教室の末席を汚す者として，これを機に，努めて地理学関連の古い著作を読んだり，あるいは地理学関連の比較的新しい論文や著作を翻訳することにかかわるようになった。



学位授与式会場にて（2006年3月23日）
左：Tran Anh Tuan 氏，右：筆者

また，厳しい言葉で研究を批判してくれた先輩・後輩の皆さんにも，もちろんフィールドでわずらわせた多くの人にも感謝している。とくに，たびたび拙稿に朱筆を入れてくれた同期の矢嶋さんには頭が上がらない。

改めて，天稟庸愚の小生が博士論文を執筆できたのは，多士済々の御厚志を賜ってのことと肝銘しなければならない。

（神戸学院大学非常勤講師）

学窓から　卒業論文に向けて

中島　知美

与那国――面積 28.9 km^2，人口1677人（777世帯，男：872人　女：805人　平成18年3月1日現在），年平均気温23.9℃，年間降水量ほぼ3000 mmの，東西に長い平行四辺形に似た形をしている島である。石垣島から124 km離れた国境の島で，台湾までは111 kmしかなく，晴れて澄んだ日には水平線上に台湾の山々を望むことができる。南西諸島では多く認められる隆起サンゴ礁で構成される。島内には谷川も見られ，宇良部山麓から湧き出した水は，祖

新入会員より

飯野茉尋
地理は人数が少ない。でも，そこを活かして，教授とも地理の皆さんとも仲良く楽しく勉強していけたらイイナぁと思います。

上田直樹
僕は地理が大好きで，今，授業が楽しくて仕方がありません。これからどんな楽しいことをするのか期待でいっぱいです。よろしくお願いします。

風野宗平
あんまり勉強とかはしてこなかったけれど，地理は好きです。よろしくお願いします。

倉嶋ひとみ
高校の地理の先生がすっごく面白い先生で，地理がおもしろくなったのでこの専修に進みました。よろしくお願いします。

齋藤鮎子
私にとって地理の知的好奇心は人生を豊かにしてくれました。卒業する頃にそれをまたより強く感じると思います。周りのみんな，どうぞよろしく！

杉本　隆
小・中・高と野球ばかりやっていましたが，大学では勉強のほうも頑張ろうと思います。よろしくお願いします。

高附篤志
小さい頃から乗り物が好きで，そこから地図に興味を持つようになりました。地理は高校1年以来ですが頑張ります！

土岐里美
旅行や地図や鉄道が好きです。高校では地理を選択していなかったので基礎からしっかり勉強していきたいです。

納（そない）の南の湿原をつくり，田原川へ注ぎ，海へと流れている。断層活動による断崖絶壁が多数ある。

中央北部に祖納，西部に久部良，南部に比川の三つの集落があり，町役場は祖納にある。島の中央部の北岸にある祖納集落は，昔から与那国の中心として栄えている。祖納より西に向かい，島の西端，西崎の近くに，湾を囲むようにして山裾に沿って，細長くひらけているのが久部良集落である。この久部良集落は，大正年間に沖縄本島の糸満から移住してきた人々によってできたもので，漁業を主として生活を営んでいる。祖納とちょうど反対側の南側に沿ってひらけているのが比川集落である。比川は，過去数回の集落移動の末，現在の位置に定着した。

私は，この与那国島を卒業論文のフィールドに選んだ。もともと沖縄の文化や産業に興味を持っていて，卒業論文も何か関わりのあるものにしたいと考えていた。8月29日から9月13日の16日間与那国島に滞在し，現地調査を行う予定を立てている。現地では住宅地図を用い，祖納集落と久部良集落を調査し，景観や住宅の様式，店舗の数や種類などを比較しようと思う。また，観光が大きな産業となっているので，空港や港，観光施設などで販売されているお土産についても調べるつもりである。

やはり，地理学を専攻して卒業論文を書くということで，高橋誠一先生のご指導もあり，現地での調査を基にオリジナルの地図を多く作りたいと思う。その調査に全力を注ぎ，学生生活の集大成として完成させたい。そして一生の思い出となるように，楽しみたい。（本学4回生）

一泊巡検報告　大正区から神戸・姫路にかけて

田口　史記

5月27日（土）から28日（日）にかけて大正区から尼崎・神戸を経て姫路に至る一泊巡検が行われた。今回の巡検は10月上旬に行われる与論島での実習調査につながるもので，事前学習では奄美・沖縄と関西との関わりを念頭において大学院博士前期課程の方々の指導・助言も得て，「自然」「沖縄・大正区」「神戸・高砂」「尼崎・川口」「姫路」の5つの班に分かれて各々のテーマについて調べた。

27日土曜日，大阪市港区の弁天町バスターミナルに集合し，まずは大正区へと向かった。バスを降りた一行は平尾商店街とその周辺を見学。商店街は「沖縄・大正区」班の大学院生の真鍋さんが指摘されたように沖縄県関係のお店は意外と少なく，一見すれば普通の商店街だった。しかし大正区についてのイメージが大阪ドームや環状線付近のことしかなかった私にとっては，沖縄の食材を扱う店はとても新鮮だった。店内には今まで見たことのない商品がたくさん並べられており，僕はサーターアンダギーというお菓子を買ってみんなで分けて食べた。ドーナッツのような感じで，かなり美味しかった。

次に向かったのは，大阪市西区川口と尼崎市である。川口では居留地跡地と川口基督教会を見学し，関大で測量学を担当されている水野浩先生から建築学上の意義について説明を受けた。尼崎では産業会館前でバスを下り，城下町や奄美・沖縄からの労働者の集住地区についての説明をうけた。

その後，阪神高速湾岸線を通って西宮・芦屋・東灘の埋め立て地を眼下に見ながら，神戸へ向った。灘区のなぎさ公園で昼食。午後から神戸市の復興計画による東部臨海部再開発地である「HAT神戸」に位置する「人と防災未来センター」の防災未来館を見学した。阪神淡路大震災地震発生時の破壊されていく街の様子の再現映像や復興のドキュメントがとても生々しく，大震災の恐怖と防災の大切さが身に沁みた。

その後，海底トンネル経由で，ポートアイランドへ向い，今年2月に開港したばかりの神戸空港で下車して見学した。そのあと，湊川・和田岬から須磨・舞子の景勝地や洋館建築を車窓から見ながら，明石を通過。明石原人出土地では段丘地形や層序を観察した（写真参照）。高砂や大塩の塩田跡地を車窓に見つつ，姫路城下町の町屋地区である紺屋町に位置するほていや旅館へ18時に到着した。夕食後は先生方や大学院生の方々とともにお酒を飲みながら親睦を深め，一日目は終了した。

二日目は姫路城とその周辺を見学した。姫路城は美しい白壁と頑丈な石垣がとても印象的だった。城下町の外壕をまわりながら，昼前にはJR播但線京口駅近くで解散。付近は姫路の皮革産業の中心地である。現地解散で今回の巡検は幕を閉じた。

今回の巡検はとても充実したものだった。ふだん行かない場所について調べることに最初は戸惑ったが，調べていくにつれてとても興味が湧いた。この巡検で学んだことは秋の与論島の調査に是非活かしたい。最後に貴重な時間を割いて，この巡検調査に協力してくださった先生方，大学院生の方々には心から感謝したい。

（本学3回生）

▲明石原人出土地（2006年5月27日）

藤森久美子
今やりたいことは特にないですが，授業でいろんなことを勉強して見つけていきたいと思っています。

船瀬奈月
長崎県出身・奇術部所属・ロシア語選択・ポッキー大好きです。高校で地理にほれました。皆さんこれからよろしくお願いします。

安田小紅美
地図がすきです。しかし高校のときは地図の読めない山岳部員でした。今は喜ばしいことに地図の読める一般人になりつつあります。

山本健一
この専修は，他専修と比べると人数が少ないので，一人一人が深く付き合えると思っています。どうぞヨロシクお願いします。

吉田峻輔
地理が好きでこの専攻にやってきました。これからよろしくお願いします。

山口祐史
大阪出身の山口です。よろしくお願いします。

堀内　毅
地理学を学び，勉強は信じることだけでなく実証が伴わなければと感じさせられます。地理学はこの性格を変えてくれるでしょう。

新院生紹介

匡　达伶
中国・上海出身，勉強のため，日本に来ています。趣味は撮影です。専修分野は自然地理。今研究したいことは，雲南省における自然と芝生，森林農地保全に関することです。

研究ノート

博多港輸移出貨物における背後流動の変遷

吉兼　崇博

はじめに

日本は食料や燃料などの大半を輸入によって賄い，製品を諸外国に輸出して外貨を得ており，対外貿易に占める海運の役割は航空機輸送が発達した今日においても重要な位置を占めている。

しかしながら，日本の港湾の世界的地位は毎年低下しており，特に1980年代前半に貨物取扱量で世界4位であった神戸港は，2003年には同38位まで後退した。その一方で，シンガポール港や釜山港，高雄港や上海港など東・東南アジアの港湾が貨物取扱量を急速に伸ばし，ハブポートとしての地位を確立しつつある。その急成長の要因は，24時間荷役が可能なうえ，5万トンクラスの大型船が同時に多数入港でき，港湾使用料が日本と比べ格段に安いことである。

日本の港湾の地位の低下のなか，日本国内の主要港湾は，輸移入によって港湾に陸揚げされた貨物の搬出先の都道府県，または輸移出によって港湾から運び出された貨物の搬入元の都道府県といった背後圏も縮小傾向にある。

本稿では，貨物取扱量が急増し，港湾の世界的地位が向上した例外的な港湾である博多港を取りあげる。紙面の都合上から，背後圏の変動が大きかった輸移出貨物について，述べてゆくこととする。用いた資料は，総務省調査による品種ごとの貨物取扱量と搬出先や搬入元の都道府県が明記された陸上出入貨物調査結果である。

博多港の概要

博多港は1899年に開港。1951年には重要港湾に指定され，1960年代から貨物取扱量の増加とともに，埠頭の岸壁工事が進められた。そして，1990年には特定重要港湾に指定され今日に至っている。なお，港湾管理者は福岡市である。2004年現在の博多港臨港区域は680.6 haで，そのうち商業区が約70%，工業港区が約25%を占めている。

図1より博多港は，主に7つの埠頭と地区で構成されていて，そのなかで箱崎埠頭と香椎パークポートが中心的な埠頭である。また，中央埠頭は博多港の中枢管理機能の役割を果たしている。そして，更なる船舶の大型化・コンテナ化に備えるため，博多湾内にアイランドシティを造成している。

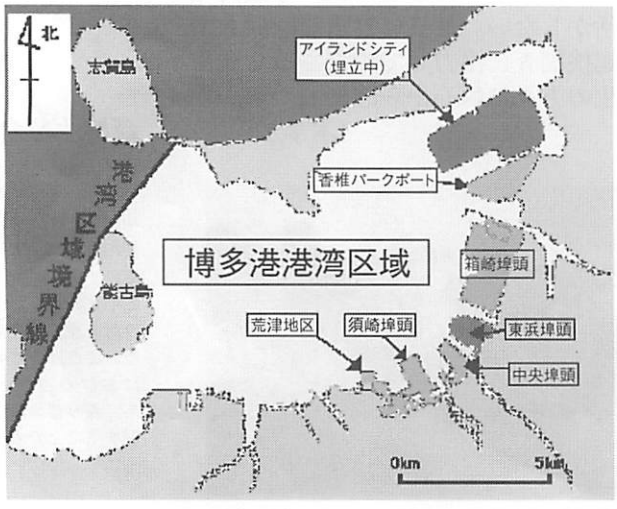


図1　博多港港湾区域と主要地区

博多港輸移出貨物の背後圏の変遷と要因

図2（横軸は項目軸）に示したように，博多港の輸移出貨物の背後圏は1984年から1991年にかけ，急激に拡大し，以降は急激に縮小している。

以下，本稿では，「陸上出入貨物調査結果」を分析し，博多港輸移出の主要品種の変遷や，搬入元の変遷などから博多港輸移出全体の背後流動距離変遷の要因を明らかにしてゆく。

図3から図6までは，1984年，1991年1995年2000年における博多港輸移出貨物搬入元の都道府県と貨物取扱量を図化したものである

まず，1984年から1991年にかけての期間は，岡山県や和歌山県，大阪府や兵庫県など博多港から離れた府県から搬入される貨物が多くなっている。

つぎに，1995年には和歌山県や大阪府から搬入される貨物は減少したが，東海地方や関東地方，北海道を搬入元とする貨物ば増加している。そして，2000年には主な搬入元が福岡県内とそれに近隣する県となっている。

これら変遷の要因となった品種別を明らかとするため，修正ウイーバー法を用い，博多港輸移出主要品種を抽出し，表1に品種別の全輸移出量に占める割合と背後流動距離を表した。

この表から，1984年から1991年にかけ，背後流動距離の短いゴム製品の博多港輸移出全体に占める相対的割合が低下し，石油製品や輸送機械などの背後流動距離の長い品種の相対的割合が増加したため，博多港輸移出全体の背後流動距離が増加したことが指摘できる。なお石油製品は，岡山県や和歌山県，大阪府など，大規模な石油コンビナートが立地する府県からの搬入が多いことが，陸上出入貨物調査から分かった。

つぎに1991年から1995年にかけて，石油製品の相対的割合が減少し，背後流動距離が短い，その他化学工業品の相対的割合が増加した。しかし，その他食料工業品やゴム製品，さらには結合型には入っていないが，その他に機械や石油製品などの品種が背後流動距離300 km以上あり，博多港全体の背後流動距離が大きく減少するには至らなかった。

しかし，1995年から2000年にかけ，ゴム製品と輸送機械など福岡県内および周辺の県から搬入される品種の相対的割合が増加したため，博多港全体の背後流動距離が激減した。

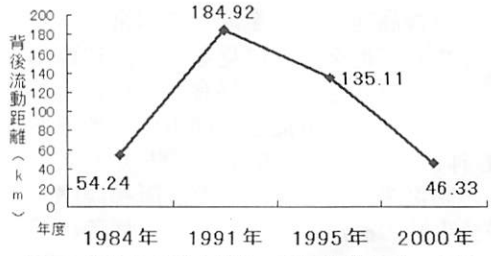


図2　博多港輸移出貨物の背後流動距離の変遷

図3　1984年度博多港輸移出貨物搬入元と貨物取扱量

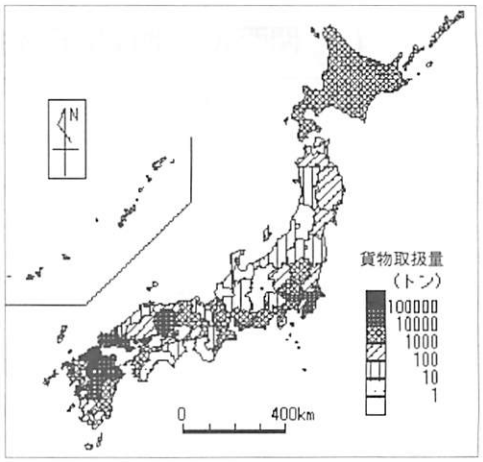


図5　1995年度博多港輸移出貨物搬入元と貨物取扱量

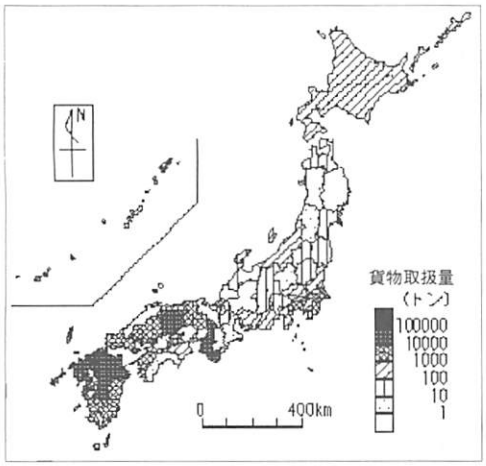


図4　1991年度博多港輸移出貨物搬入元と貨物取扱量

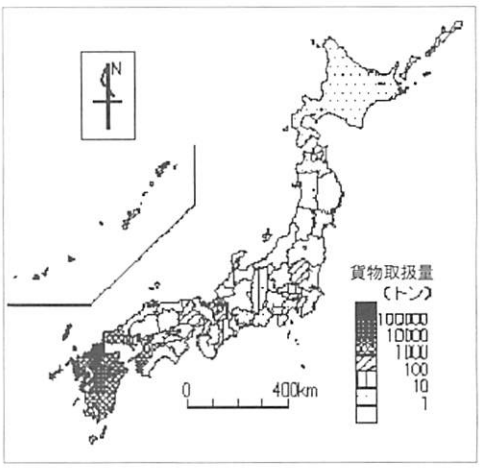


図6　2000年度博多港輸移出貨物搬入元と貨物取扱量

表1　修正ウィーバー法による博多港の主要品種混合型と主要品種の背後流動距離

年度	品種・割合（%）・背後流動距離（km）										結合型	割合*
1984年	ゴム製品 18.49% 2.53 km	紙・パルプ 12.58% 178.71 km	その他食料工業品 10.06% 21.79 km	その他化学工業品 8.42% 58.34 km	麦 6.27% 47.72 km	水産品 5.86% 153.95 km	分類不能 5.12% 1.07 km	化学薬品 3.50% 1.00 km	金属製品 3.39% 5.89 km	原木 3.32% 53.01 km	10種混合	77.01%
1991年	石油製品 26.58% 319.23 km	ゴム製品 13.73% 27.53 km	輸送機械 10.03% 92.47 km	その他機械 7.69% 72.41 km	その他食料工業品 6.69% 79.50 km	鉄鋼 6.13% 381.34 km	輸送用容器 4.28% 35.74 km				7種混合	75.13%
1995年	その他化学工業品 54.54% 19.94 km	ゴム製品 7.69% 101.85 km	その他食料工業品 7.38% 347.88 km								3種混合	69.61%
2000年	ゴム製品 30.64% 35.81 km	輸送機械 21.70% 9.27 km	日用品 7.52% 3.71 km	その他食料工業品 7.45% 58.61 km	その他機械 6.16% 27.58 km						5種混合	73.47%

注）*割合とは，各年度の混合型の割合を合計した数値である。

まとめ

以上のことを総括すると，1991年はゴム製品と石油製品，1995年は，その他化学工業品が，2000年にはゴム製品と輸送機械が博多港輸移出全体の背後流動距離変遷の要因となっている。いずれの年度に共通することは，1品種ないし2品種の博多港輸移出全体に占める相対的割合や搬入元の大幅な変遷が，背後流動距離の変遷に大きな影響を与えていることが分かった。

しかし今回の調査では，背後流動距離の変遷に大きな影響を与えた品種において，ある年度だけ極端に貨物取扱量が多い都道府県が発生したのか，その理由については，陸上出入調査だけでは導き出せなかったため，今後の検討課題としてゆきたい。

（本学大学院・文学研究科博士課程前期課程
2006年3月修了，家電量販店デオデオ・岩国店勤務）

【参考文献・資料】

運輸省運輸政策局情報管理部：『陸上出入貨物調査　昭和59年・平成2・7年』，運輸省

国土交通省総合政策局情報管理部：『港湾統計（陸上出入貨物調査）平成12年』，国土交通省

National Ma. *Containerisation International Yearbook* 1987, 2005

関西大学地理学研究会会員の皆様へのご連絡　関西大学地理学研究会事務局

飼牛敬大
この春に東京の大学から関西大学大学院の博士前期課程に入りました。大学院では悔いの残らない2年間になるように，研究をより深く行い，そして様々な事に挑戦していきたいと思います。

河野俊英
今年度，学部から院の地理学教室に入学した河野です。学部の頃に集中して取り込むことができなかった事に対して，院の2年間で一所懸命に努力していきます。趣味はゴルフなのでよろしければ是非，一緒にラウンドしましょう。

丁　佳潔
大学院に入って，あっという間に4ヶ月になりました。そのうち私が困っている時，優しく教えてくれたみなさんは最高のメンバーですね。みんなと一緒にすごした時間は楽しかったです。また皆さんと一緒にがんばりましょう。

舟越寿尚
学部に引き続き大学院でも，地理学教室にお世話になることにしました。興味のある範囲は広いですが，今後も都市地理・商業地理を中心に研究したいと考えています。まだ至らぬ点が多いですが，ご指導のほどよろしくお願いします。

真鍋一弘
本土における沖縄文化に関連した地理的研究をしています。下町場末のスナックで修行した自慢の演歌を駆使し，強者揃いなウチナーンチュの歌い手さんらと交流する「唄うフィールドワーカー」な私です。

1. 日帰り巡検のご案内

毎年，研究会の恒例行事となっている日帰り巡検を実施します。ひとりでも多い卒業生，現役学生・院生の参加をお待ちしております。

テーマ：ならまちと大和郡山
日　時：平成18年10月29日（日）　10時30分～17時30分　雨天決行
集　合：近鉄奈良線奈良駅地上出口（東口）の行基像前　朝10時
コース：近鉄奈良線奈良駅－東向商店街・もちいどの通り－ならまち格子の家－奈良市史料保存館－三条通り（一時解散して昼食）－JR奈良駅－JR郡山駅－稗田環濠集落－金魚資料館－郡山城跡－近鉄郡山駅
費　用：160円（昼食代は各自負担）
連絡先：参加希望の方は10月25日（水）までに，電子メールか電話で飼牛（かいご）（t-kaigo@ezweb.ne.jp 090-6214-5615）までご一報下さい。

2. 第88回地理学研究会

日　時：平成18年12月9日（土）　15時～20時
会　場：文学部第3会議室（文学部事務棟の3階）
発　表：15時～18時
松原光也（大学院博士後期課程，PGLabリサーチアシスタント）：吹田市の医療機関分布
博士前期課程1回生：与論島実習調査概報
胎中秀記（JTB日本教育旅行大阪支店）：地理学出身の旅行会社営業マン
高橋誠一（関西大学）：与那国島の集落景観
懇親会：18時～20時
費　用：2,500円（会員）

教室だより

■平成18年度の2回生で地理学教室に新たに入ってきた学部学生は14名（男7名，女7名）でした。フレックスの3回生で地理学を主としようとする学生は2名です。また，大学院博士前期課程は9名を新たに迎えました。このうち2名は中国上海からの留学生で梅花女子大学からの進学です。また駒澤大学地理学科から1名，立命館大学地理学科から1名（社会人入学），内部進学が5名でした。博士後期課程のD1には学内から岡田良平（地誌学），松井幸一（歴史地理），堀内千加（人文地理）の3名が進学しました。その結果，大学院生の総勢16名となりました。

4月27日（木）夜に「すっぽん」で歓迎会を開催しました。これで地理学教室の構成は，2日生14名，3回生14名，4回生19名，フレックス3回生2名，同4回生1名，大学院博士前期課程は10名，博士課程後期課程9名となりました。全構成員数は69名です。

■恒例の「地理学実習」によるバスによる1泊巡検は，6月4日(土)～5日(日)の1泊2日で高橋，木庭，野間の3教員と19名の3回生と大学院生，卒業生も加えて総勢44人で大阪大正区の沖縄出身者集住地区，西区川口から尼崎，神戸（人と防災未来センター，神戸空港），舞子，明石原人出土地，大塩，姫路城で実施しました。見学地の記録は本誌の「実習調査報告」をご覧下さい。

■地理学実習や調査研究法，演習などの資料として，西日本～関東・中部地方までの2万5千分の1最新地形図を20万分の1地勢図の図幅単位で合冊したものを地理学実習室にそろえました。総合図書館での地形図閲覧を補うものとして活用して下さい。

■大学院合同演習は7月20日(土)13時～17時に地理学実習室でM2の白澤武蔵，D1の岡田良平，松井幸一，堀内千加，D3森田浩司，松原光也の6名が発表しました。

■非常勤講師として毎年ご出講いただいていた，高橋達郎，一最芳秋の2先生はこの3月の年度末で，定年規定により退かれました。本学に対しての長年の学恩に深くお礼申しあげます。

■今年度新たに非常勤講師としてご出講いただいた先生は，川口洋（M歴史地理学，帝塚山大学），山田誠（D歴史地理学，京都大学），半場祐子（M自然環境学研究A，京都工芸繊維大学），三戸彩絵子（M自然環境学研究B，RITE），水田憲志（地理学調査研究法），桑原康宏（地理歴史科教育法，元・和歌山県立高校教諭），元田茂光（地理歴史科教育法），森田勝（地理歴史科教育法，堺女子短期大学）の8名です。水田憲志・元田茂光の2氏は本学OBです。

■平成18年3月～8月までの教員の海外出張は以下の通りでした。①橋本征治：フィリピン（3月16日～29日：日本学術振興会科学研究費）；フィリピン（8月28日～9月10日：科研によるマニラ・バギオ・ボントクでの調査），②野間晴雄：ベトナム（3月7日～14日）；ベトナム（5月14日～16日：ベトナム国家大学100周年記念行事参加）；ラオス

・タイ（6月21日～28日：科研費）；タイ（7月26日～29日：科研費）；タイ・ラオス（8月19日～9月6日：科研費），③木庭元晴：ベトナム（3月7日～14日），④伊東理：シアトル，デンバー（3月15日～28日：科研費）。なお，木庭，野間のベトナム調査は日本学術振興会科学研究費（代表・高橋誠一）による琉球関係調査一環で，本学OBの西岡尚也，貝柄徹氏も参加しました。

■伊東教授は在外研修で3月28日から1年間，イギリス，オーストラリア，ニュージーランドなどで研修予定です。そのため，伊東教授の担当のM,Dの演習は橋本教授が担当しています。現在はイギリスのリーズに滞在中です。

■史学・地理学専修の地理学コースが来年（2007年）4月から「地理学・地域環境学専修」として独立します。詳しい内容は，大学ホームページをご覧下さい。これを機に，魅力的な地理学や地域環境学の科目を新設するとともに，基礎演習，演習，卒業演習，実習を除いて，半年単位の講義となります。来年度の1回生から適用となりますが，完成年度まで時間割は旧カリキュラムと併存することになります。「知へのパスポート」・「学びの扉」の入門科目が春学期・秋学期に1コマずつ「地理学・地域環境学」独自開講されます。1年配当科目としては「フィールドワーク入門」が開設されます。生き残りをかけての新専修設置で，今後，在学生，卒業生のご協力を得て，できるかぎり，2回生での専修者を増やす必要があります。大学院の改組も近々迫っております。

■森眞一郎さんが「沖縄県離島における海藻養殖展開の地域的条件に関する考察」で，三重大学から博士学位を授与されました。氏は本学地理学研究室のOBで，三重県で高校教師をしながら，三重大学生物資源学部資源システム学研究室博士後期課程に所属して研究を続けて来られた。

》》》》》平成17年度会計報告《《《《《

〈収入の部〉

前年度繰越金	198,367円
会費収入	152,000円
計	350,367円

〈支出の部〉

会報印刷費	70,140円
通信費	43,441円
巡検資料印刷費	5,664円
計	119,245円

平成17年度差引残高　231,122円

以上報告申し上げます。

（会計：谷真理子，白澤武蔵）

卒業論文題目一覧（2006年3月卒業生）

駅看板からみた情報集積地としての駅	岩間雅生
京都市における外国人観光客と多言語表記の観光案内標識の利便性について	兼田明典
御杖村の社会構造　－神末を事例に－	川合はるな
京都市における景観行政　－西陣の移り変わり－	川那辺将也
宮崎の観光に漂う雲海を解く鍵　－観光立県MIYAZAKIへ－	河野俊英
新撰組キャンペーンとその反応を通して京都市の観光振興策を考える	楠　直美
金沢市ひがし茶屋街のまちづくりの紆余曲折　－重要伝統的建造物群保存地区指定をめぐって	小松未来
関西文化学術研究都市の一翼を担う木津町	堺　真理
吹田市における地域医療について	佐々木孝恵
奄美のシマ　－龍郷町円集落を事例として－	澤近光裕
乗客減に悩む宮崎県の公共バス交通の対策と課題　－地域と現場における公共交通の観点から－	曽我　傑
妙見信仰に関する地理学的考察　－洛陽十二支妙見巡りを事例として－	谷真理子
四国地方へのパッケージツアーとその特性	林　明善
上海での外資百貨店の展開　－伊勢丹百貨店を事例として－	原　章子
北山杉の郷　－京都市北区中川北山町－	堀阪純代
高松市中央商店街における店舗の業種構成とその変遷	森井英登
大阪北部地域におけるストリートパフォーマンス	森岡将紀
大阪府における輸入車ディーラーの立地	舟越寿尚
－理と情の果て－　ドストエフスキー『罪と罰』及び野田秀樹『贋作・罪と罰』の比較	甲斐荘周
JAファーマーズマーケットと中山間地域の農業活性化　－橋本市を事例に－	和田智奈美

修士論文題目一覧（2006年3月修了生）

タイ農村社会の変容過程における学校と進学意識の変化　－東北タイ・ドンデーン村－	岡田良平
勧請神事からみた村落社会の変容過程	尾崎美佳
小松織物産地の構造変化と同業者組織	生地泰明
京阪神大都市圏中心市京都市における人口回帰現象	堀内千加
近代都市形成における近世都市要素の影響	松井幸一
地殻上部を破断させる陥没構造　－北摂山地・沖縄島中南部－	森本英揮
1980年以降の日本における特定重要港湾取扱貨物の背後流動	吉兼崇博
食の地域差からみた東西文化接触地帯の考察　－三重県を中心に－	山崎　直

谷真理子
地理の面白さに惹かれて修士までできました。星好きが高じて『天文に関する民俗と地理を結びつける』をテーマに研究しています。2年間という短い期間ですが，最大限の経験をつみたいと思います。よろしくおねがいします。

川合はるな
地理を勉強することにしたのは旅行に行くのが好きなのがきっかけでした。学部に引き続き，研究テーマをさらに深めていきたいと思います。未熟な点が多いと思いますが，2年間よろしくお願いします。

曽我　傑
大学に引き続き，大学院でもこの地理学教室でお世話になります。2年間という短い期間ですが，研究にいそしみ，様々なことを吸収して人間的に成長していきたいと思っています。まだまだ未熟者ですが，今後ともよろしくお願い致します。

岡田良平
私は修士課程で，東北タイにあるドンデーン村に数度にわたって長期間住み込んで調査しました。一番の財産は，調査地がふるさとのように感じられることです。今後もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

堀内千加
地理学の楽しさと，奥深さを実感する毎日です。これからも地理学教室の一員として頑張りたいと思います。よろしくお願い致します。

松井幸一
博士課程後期課程では現在までの研究を深めるとともに，新たな研究も進めていきたいと思っています。よろしくお願いします。

随想

棚田農村に関する研究と実践

宮崎　猛

昨年から，中国雲南省紅河哈尼族イ族自治州にある元陽県の棚田農村の実態調査を行っている。少数民族の哈尼族とイ族の村であり，通訳は必ず2人，日本語と中国語，中国語と哈尼（イ）語の通訳がセットで必要となる。ベトナム国境に近い，昆明から車で1日かかる山間僻地にある棚田は，世界最大級であり，雄大な景観から世界遺産に申請中である。棚田農村調査の困難性には，言葉やアクセスの条件以外に，生活文化の違いがある。

自給自足に近い経済構造にある農村共同体の全戸調査では，地元の生活習慣にならい，日本と中国の大学関係者および地元農民が協働・共食を重ねて，集団としてのまとまりを確保することが，調査研究の成果とは別に求められる。これは将来にわたる人間関係の構築であり，仮に実践的成果と呼ぶことにする。元陽県の棚田農村調査における共食は，哈尼族とイ族の習慣に基づき，毎夜徹底的に飲み，食べ，交流するものであった。言葉が通じない分，また多少酒が飲める者として，最初の数日間は徹底飲食と相互交流を楽しんだ。しかし，飲食も昼夜に及び，回が重なるにつれて，日本人の胃腸も持たなくなり，農村調査に支障がでてきた。そこで，日本人から中国の大学関係者と農民に相談すると，中国側も相手を見て対応していることがわかり，節度ある共同飲食に変更することができた。

何事も最初が肝心であり，第1回調査の時に毎夜徹底的に飲み，食べ，交流した経験が，地元農民との人間関係構築に役立っており，2回目以降の調査は，今のところ順調である。

自給自足の棚田農村では，標高2,000 m以上を山林，2,000 m～700 mを棚田，山林と棚田の境に集落と幹線道路がある。棚田は1年中湛水しており，魚の養殖に利用される。棚田や河川からの蒸発水が標高2,000 m以上で地形霧（雨）となり，山林や集落では年間の半分の日数で降雨がみられる。山上部の降雨は山林の地下に浸透して，集落周辺で多くの湧き水となって表面に出てくる。このように，棚田農業はみごとに地域の気候風土に適応した人間活動である。

自給自足の農村でも，近年人口の増加や生活水準の向上により，都市への出稼ぎや商品作物・家畜の販売による現金収入も増えてきている。かつては，現金収入を獲得するために，森林伐採が個人的にひんぱんに行われていたが，現在では森林伐採が禁止され，住民活動として植林などの森林保護に取組んでいる。農薬や化学肥料をまったく使わない有機農業，家畜や人間のふん尿を発酵させたメタンガス利用などが住民すべてに普及しており，自然生態系と資源循環がよく保全されている。今世紀に入ってから，棚田景観を利用した農家楽（グリーン・ツーリズム）が増加しており，持続可能な現金収入源として位置づけられている。

近年，美しい棚田の景観は文化的景観と呼ばれ，その本質的価値は地元住民の集団としてのライフスタイル（生き方，価値観）を体現していることにある。つまり，元陽県の棚田の美しさは，少数民族の哈尼族やイ族の自然と共生した農業，自然崇拝・森林保護思想の実践といったライフスタイルの美しさを現したものと考えられる。この発想は，毎夜の地元農民との徹底飲食の中から浮かんできた。

最後に，農村社会のフィールドワークを積み重ねてきた私には，日本国内でも，地元との人間関係のネットワークという点で，多くの実践的成果が蓄積されているように思う。時には，研究成果よりも実践的成果の発揮が楽しく，人生の意義を見つける場合もある。このような実践的成果の集大成として，去る7月1日に「都市農村交流ネットワーク協会（仮称）設立準備会」を発足させた。来年3月には，組織を立ち上げて，NPO法人への申請も考えている。これまで培ってきた人々のネットワークを大切にしたいと思う。

（京都府立大学農学研究科教授，
関西大学文学部非常勤講師）

千里地理通信　第55号
2006年9月28日　発行
関西大学文学部地理学研究会
〒564-8680 吹田市山手町3丁目3-35
関西大学文学部地理学教室内
Tel：06-6368-1121（内線4890：大学院生室）
e-mail：moto@ipcku.kansai-u.ac.jp
URL：http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~moto/kyoshitsu_site.htm
郵便振替：大阪00970-4-81149
印刷：協和印刷株式会社
〒615-0052 京都市右京区西院清水町13
Tel：075-312-4010